

どんぐり

No.73

主な内容

- 卷頭言「五感(官)を使った自然とのふれあい」
- 自然学校のさらなる充実のために
- 平成30年度自然学校実施報告書のまとめから
- 南但馬自然学校調査・研究委員会から
- 特色ある取組【林業体験】



「香りをきく」（宝塚市立すみれが丘小学校）

兵庫県立
南但馬自然学校

HYOGO KENRITSU MINAMI TAJIMA SHIZEN GAKKO

Nature Education Center

五感（官）を使った 自然とのふれあい



兵庫県立南但馬自然学校

校長 服 部 保

自然とふれあう
自然とのふれあい

私達自身が十分自然を学ぶと同時に、子ども達に自然の大切さを伝え、自然体験活動を支える必要があります。

自然体験活動の第一歩は「五感を使った自然にふれる活動」です。私達は目のみで自然と接することが多いのですが、他の器官を使って自然にふれると目ではとらえることのできなかつた感覚を得ることができます。

植物を例にしましよう。

タデ（ヤナギタデ）という紫色のきれいな実をつけるムラサキシキブという低木にはヤブムラサキというたいへもあるのです。

タデ（ヤナギタデ）という植物は視覚ではどこにでも生育しているヤナギのような葉をもつ草となりますが、葉を噛んでみると、その辛さには目が覚めます。「蓼食う虫も好き好き」という諺は「この

自然学校は様々な体験活動の場とされています。学校内で実施できる身近な内容の体験活動は、遠く離れた自然学校で行う必要はありません。したがって、自然学校で実施する体験活動は、普段、学校では実施できない内容が中心となります。

では、その体験活動はどのようなものでしょうか。自然

の恵みを受け続けるためには、

自然からたくさんものを得ています。このような自然から



タデと蓼食う虫

(3)どんぐり



ヤブムラサキ

んよく似た植物があります。両種の違いはヤブムラサキには全体に細かい毛がびっしりと生えていることなのですが、肉眼で見てもよくわかりません。ヤブムラサキの葉を取つてそつと表面に触れてみるとビロード状（ベルベット状）の軟らかな感触が指に伝わり、なぜかほつとします。ムラサキシキブの葉には、そのよう

な感触はありません。崖にはミツデウラボシというシダ植物がよく生えています。この植物の葉を取つて指で揉んでみましょう。桜餅の香りが広がり、その香りはしばらく指先に残ります。

ハイキング道などの周辺に

はヤマナラシという樹木が生育しています。ヤマナラシの葉柄は葉身よりも長いので、葉はわずかな風でもそよぎ、その音がまわりに響きます。目を閉じていてもこのサラサラとした葉音が聞こえ、夏の暑い日中でもその音に涼しさを感じることができます。南

来ませんか。

以上のように五感を使って自然にふれる方法を子ども達に伝えると、今までと違った自然の一面を感じ取ることができ、日本文化を感じ取れる感受性豊かな子ども達が育つでしょう。

自然学校で「五感自然教育」を進めるためには自然の情報を必要です。どの時期に、どの場所に行けば、どのような生物とふれあうことができるのかといった情報がなければ、

このような教育はできません。南但馬自然学校では植物、昆蟲、鳥類などの情報を集め、目録を作成したり、写真を整理しています。自然情報をさらに充実させて、「五感自然教育」を進めていきたいと考えています。



ヤマナラシ



入校式での服部校長のお話

自然学校のさらなる充実のために

兵庫県立南但馬自然学校

主任指導主事兼指導課長 御栗 康嗣

自然学校のねらいを達成するためのプログラムづくり

プログラムとは、一つ一つの活動を組み合わせて、目的を持つ一連の流れを持たせた全体像で、学校の「思い」や「ねらい」、「テーマ」などを活動という目に見える「動き」、「形」を用いて構成したものです。ねらいを設定する際に大切にしたいことは、キャリア教育の視点から整理された子ども達に身に付けさせたい力や教員の思いなどを明確にすることです。そのねらいに迫るためには、どのような活動を行えば良いかを練り上げることでプログラムを作成していくことがあります。子ども達が喜びそうな活動を羅列して配置するだけでは、よいプログラムとは言えません。「どのような活動ができるのか」ではなく、「その活動を通してどのような力が付くか」を意識することが大切です。

様々な活動でねらいに迫ることができますが、自然学校の原点に立ち返った活動を取り入れてはいかがでしょうか。

自然と豊かにふれあう活動の充実

自然学校の大きなねらいの一つに、「自然とのふれあい」があります。これは、自然学校の原点と言えます。自然学校の原点に帰り、「自然とのふれあい」を具現化する「自然体験」を取り入れていくことです。ねらいには、「仲間づくり」や「感性を豊かにする」などありますが、自然とのふれあいと切り離して、これらに重きを置かれている傾向にあるように思います。これについて、本校作成の平成23・24年度「研究紀要」において、自然学校プログラムを原体験という観点で調査しました。本校で実施された自然学校プログラムを対象として、各活動を原体

験に当てはまるか分類し、各原体験の時間実施率を導きました。この結果、原体験時間実施率を見ると、全体の約45%で、原体験の分類に入る活動があまり実施されておらず、仲間づくりや集団生活の向上を目指す内容が相対的に多くなっていることが分かりました。

また、平成29年度には、自然

そのものに触れる活動調査を行いました。「自然そのものにふれる活動」が積極的に行われる

ために必要なものとして、教員用の指導マニュアルや魅力ある

活動が求められていることが分

かりました。そこで本校の強み

である自然環境を最大限いかせ

る、自然にふれる活動として、

「どんぐりコレクション」、「も

みじがり」、「香りをきく」、「木

材くらべ」を開発しました。こ

れらに共通していることは、指

導者に植物の専門的な知識がな

くても、子ども達と一緒に五感

を使つて活動を楽しむことがで

きることです。

本校では、先生方が、自然学校のねらいをもとにしてプログラムを練る段階から、本校職員も一緒になつて支援する「自然学校出前講座」という事業を行っています。

この事業を活用していただき、自然学校のさらなる充実に今後とも務めていく所存です。

るなど、指導方法を工夫することで、自然にふれる活動でそのねらいに迫ることができます。

自然とのふれあいを通して、

様々なねらいに迫ることが可能

となります。学習の場を教室か

ら豊かな自然の中へ移して活動

するわけですから、その環境を

いかした活動を取り入れながら

自然学校を実施していく

だきたいと思います。

本校では、先生方が、自然

学校のねらいをもとにしてプロ

グラムを練る段階から、本校職員

も一緒になつて支援する「自然

学校出前講座」という事業を行

っています。

この事業を活用し

ていただき、自然学校のさらな

る充実に今後とも務めていく所

存です。



るなど、指導方法を工夫することで、自然にふれる活動でそのねらいに迫ることができます。

自然とのふれあいを通して、

様々なねらいに迫ることが可能

となります。学習の場を教室か

ら豊かな自然の中へ移して活動

するわけですから、その環境を

いかした活動を取り入れながら

自然学校を実施していく

だきたいと思います。

本校では、先生方が、自然

学校のねらいをもとにしてプロ

グラムを練る段階から、本校職員

も一緒になつて支援する「自然

学校出前講座」という事業を行

っています。

この事業を活用し

ていただき、自然学校のさらな

る充実に今後とも務めていく所

存です。

平成30年度自然学校実施報告書のまとめから

自然学校のねらいの達成状況について

平成30年度、利用校から提出いただいた自然学校実施報告書にある本校が設定した「自然学校のねらい」をまとめると図1のようになります。このグラフは、7つの項目について「十分に達成できたと思われる」と回答があった項目を全体に対する割合で示したもので、上段が平成29年度、下段が平成30年度の結果です。平成29年度と比較して達成度の向上が顕著な項目は「②自主性・主体性を培い、判断力を身に付けさせる」であり、11.4%高くなっています。この結果から、改訂された学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、プログラム編成や指導者の児童への働きかけ等に工夫があったことが考えられます。

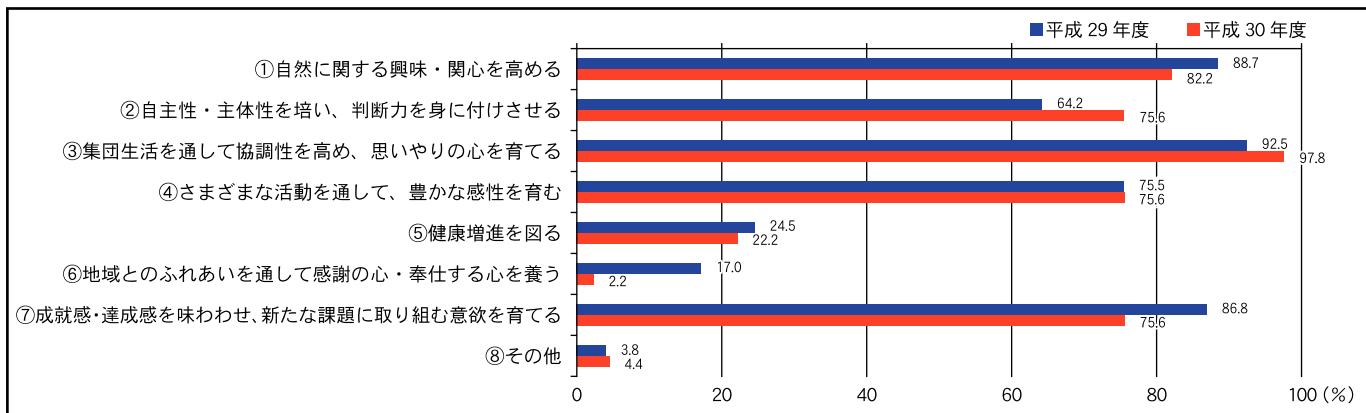


図1 自然学校のねらいの達成状況

主体性を育むための具体的な取組例

自然学校実施報告書の報告に基づき、主体性を育むための具体的な取組例として、以下、2点を紹介します。

【キャリアパスポートの活用（姫路市立青山小学校）】

事前学習として、キャリアパスポートに自然学校で成長したいことや頑張りたいこと等、自然学校の目標を考えさせ、事後学習として、自分が何の役割で、目標に向かってどのように取り組んだのか、また、自然学校での頑張りを今後の生活等にどのようにいかしていくのかを振り返りました。

【総合的な学習の時間との関連（三田市立弥生小学校）】

自分の住むふるさとに誇りを持つことに視点を置いた総合的な学習の時間と関連させ、県内の様々な自然を比較し、自分の住む地域の自然のよさに気付くために南但馬自然学校の自然について調査しました。総合的な活動の時間の活動のゴールとして環境についての発表会を設定していたため、児童はそのゴールに向かって、事前に考えた調査課題に取り組みました。

★自然学校の経験をいかして、2学期で頑張りたいことはなんですか。

○これからもこまつたことがあっても、まずは、自分たちで考えたいです。具体的には、音楽会に向けて自分で練習したり、みんなといっしょに合わせられるように努力したりして、自分で考えてやっていきたいです。

○お世話になっている人や家族への感謝の気持ちをわすれずに学校生活を送りたいです。

キャリアパスポートによる活動の振り返り
(一部抜粋)

主体性を育む視点を

生徒指導提要（平成22年3月文部科学省発行）では、主体性を「与えられたものであっても、自分なりに意味付けを行ったり、自分なりの工夫を加えたりすることで、受動的に行行動するのではなく能動的に行行動する」とことと示しています。自然学校では、学校や家庭を離れて不慣れな環境の中で、学習したり生活したりします。また、プログラムに沿ってあらかじめ活動が決められていたり、自分が中心となって思うように行動できるとは限らなかつたりする場合があります。4泊5日以上の長期にわたる自然学校にどのような気持ちや態度で参加するのか、また、一つ一つの活動にどのように関わっていくのかが、児童一人一人にとって、自然学校の成果を大きく左右するものと考えます。そのためには、先生方が児童の主体性を育もうとする意識を持ち、プログラムや活動の中にその視点を踏まえた場を設定したり具体的な活動を取り入れたりするなど、意図的な働きかけが大切です。

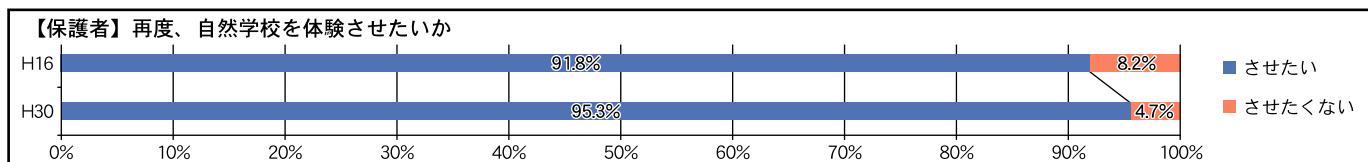
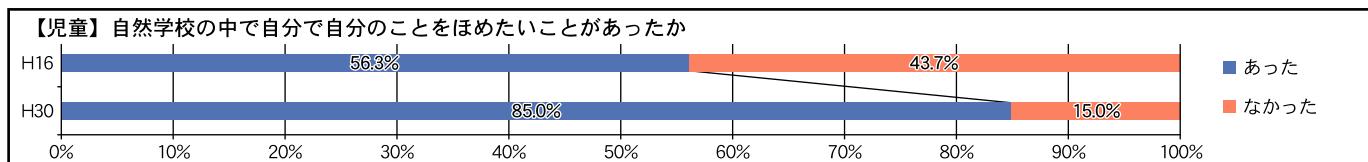
(文責 井上 貴至)

南但馬自然学校調査・研究委員会から

本校では、平成29・30年度の2年間にわたり、アンケート調査部会と体験活動検討部会を設け、調査・研究を進めてきました。以下、概略を報告します。詳細は「平成29・30年度研究紀要」(平成31年3月発行)をご覧ください。

「自然学校体験が参加児童に与えた影響について～児童及び保護者のふりかえりからの検討～」

アンケート調査部会では、本年度の利用校から13校を抽出し、その児童と保護者を対象にアンケートを行い、平成16年度調査との比較等を通して、これまでの自然学校の成果や課題を分析し、今後の取組の指針を探りました。以下、その調査結果の一部を紹介します。



自分で自分をほめたいことがあった児童の割合は85.0%であり、平成16年度調査より28.7%も高くなっていることから、自然学校が児童の自己肯定感を高める機会となっていることがわかります。この背景には、自然学校期間中や事後学習において、児童に自身のがんばり等を自覚させるプログラムの内容や指導者の声かけ、ふりかえりの時間に工夫があったことが考えられます。

また、自然学校にもう一度参加させたい保護者の割合は95.3%であり、多くの保護者が自然学校を肯定的にとらえていることがわかります。長期宿泊体験における課題や困難等を乗り越え、達成感や成就感に満ちた児童の姿や変容を保護者が実感していることが、自然学校の高い評価の理由の一つと言えます。

(文責 井上 貴至)

「自然環境を効果的に活用した体験活動について～児童が主体的に自然とふれあう活動の推進に向けて～」

体験活動検討部会では、「自然そのものにふれる活動を積極的にプログラムに取り入れたいが、専門的な知識や経験がなくても自信がない」「指導ができるマニュアルや魅力ある活動があれば」などの本校を利用する先生方からの声に応えるため、「どんぐりコレクション」「もみじがり」「香りをきく」「木材くらべ」の4つの活動を開発しました。

利用校にそれらを活用していただきながら、教師へのアンケートと児童の感想から活動の目的の達成度を検証しました。ここでは『どんぐり72号』で取り上げた「もみじがり」について紹報を紹介します。

「もみじがり」の活動の目的

- (1) もみじを観察することによって、新葉やもみじの美しさなど自然の事物への興味と関心を高める。
- (2) もみじにはたくさんの種類があることなど自然の多様性に気付かせ、自然を愛する態度を養う。

教師へのアンケートで、「実施した活動により児童にとってどのような成果が得られたと思いますか」の問い合わせに対し、「自然への興味関心が高まった」と回答した割合が96.9%、「自然の多様性に気付いた」は65.6%、「自然を愛する態度が身に付いた」は12.5%でした。自由記述では、「自然をいかした活動は、南但馬自然学校ならではと思うので、今後も自然にふれあう活動をしてみたい」という前向きな意見がありました。一方、「せっかく様々な葉を見つけられたので、集めた葉を使った次の活動へつながりを持たせることができるのでないか」等の提案もいただきました。

また、児童の感想を活動の目的に即したカテゴリーで分類すると、「興味・関心」については93.1%、「多様性の気付き」については74.2%、「自然を愛する」については0.4%の児童が記述していました。

自然に対する興味・関心や生物多様性についての活動の目的は、概ね達成できましたが、「自然を愛する」という自然に対する心情の部分では、検討が必要であるという結果となりました。これらの結果を受けて、開発した活動に改良を加え、さらに活用されるように努めています。 (文責 藤川 明人)

特色ある取組【林業体験】

1 芦屋市立岩園小学校の取組

自然資源を活用した“キャリア教育の視点を踏まえた特色ある取組”となった実践事例として、芦屋市立岩園小学校の取組について紹介します。児童が“伐採→運搬→加工”的作業を体験し、木が倒れる時の音や衝撃、持った時の重さ、手にした時の香りや手触りなど、五感を働かせて体感することができました。

自然学校 のねらい	豊かな自然や文化にふれて体験を広げよう 自ら考え、進んで行動しよう みんなで協力し、助け合って生活しよう
--------------	--

2 林業体験の展開

(1) 林業体験当日

《森や木についての学習》

森林組合の職員を講師として招聘し、仕事の内容や当日の伐採方法、仕事や森林に関する思いを聞き、森や木の働きについて理解しました。



《木伐採》

- ・森林組合の職員によるデモンストレーションを見学し、林業従事者の仕事について理解しました。
- ・児童が協力し合い、ロープを引っ張ってヒノキを引き倒し、玉切りされた伐採木を運搬しました。



《伐採した木の活用》

- ・伐採した木を輪切りにして、クワガタムシやキツツキ等の竹細工の台座を作りました。



児童の感想

- ・木が倒れる時の迫力にすごく驚きました。
- ・木を切る人の技術にびっくりしました。
- ・木を切ることは悪いことだと思っていたけど、自然をよくしたり災害から守ったりするために必要なことだとわかりました。等

(2) 事後学習

《教科との関連》

社会科の授業の中で、自然学校での体験を振り返りながら森林の役割、伐採の必要性について学ぶとともに、森林の育成や保護に関わる人々の工夫や努力について理解を深め、自らが果たすべき役割について考えました。

児童の感想

- ・森林は水を貯えてこう水や土砂くずれを防いだりして人々のくらしを守っていることがわかりました。また、動物の住みかにもなっていました。それ以外にも地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収しているので、森林を守ることが地球全体を守ることなのだと思います。
- ・良い木が育つように枝打ちや間伐などを行っていることを知ってびっくりしました。他にも森林の手入れをしたり、国産の木材の利用の呼びかけをしていることを知り、森林を守ろうとしている熱意を感じました。
- ・「林業」と聞くと、木を切る仕事だと思っていたが、林業体験の後には地球を守っている仕事だと思うようになりました。普段使っている木材、例えばえん筆などを大切に使っていきたいと思います。等

3 キャリア教育との関連について

今回の林業体験で、児童は森林組合の職員の話を聞き、林業に携わる人々の思いを理解しました。そして、実際に伐採の様子を見学し、自分たちの手で直接木にふれる体験をして、森林を守り育てる目的や苦労を体感することができました。事後学習では、教科と関連させ、森林や自然が自分たちの生活と密接につながっていることや林業の大切さを理解することで、働くことの意義や社会の一員として何ができるかを考える機会としました。

このように、体験活動の学びを教科の学習と関連付けることで、児童は実感を伴いながら社会と自分とのかかわりを認識していきます。今後も自然学校が児童のキャリア発達を促す貴重な機会となることを願っています。

(文責 水野 是清)

2019年度 講座・研修会のご案内

自然学校出前講座

実施期日：2019年4月～2020年3月(実施日は各学校の要請をもとに調整します)

内容：◎プログラムデザインに関すること

◎自然学校に関するこ

自然学校の趣旨説明・事前学習・保護者説明会

※出前授業として、兵庫県立南但馬自然学校で展開されるアクティビティの一部も行うことができます。

(ロープワーク実習、1人用テント設営、野外炊事実習、火おこし体験等)

申込方法：実施1ヶ月前までに「自然学校出前講座申請書」で申し込んでください。

(事前に本校との調整をお願いします)



自然学校指導者スキルアップ研修

期日：2019年8月20日(火)

対象：県下の公立小学校教員(初任者研修及び中堅教諭等資質向上研修としても受講可)

募集定員：20人

内容：アクティビティ指導の基礎基本 実習「ロープワークをいかした隠れ家づくり」

プログラムデザインの基礎基本 実習・演習「自然学校プログラムデザイン」



自然学校講座(指導者入門)

期日：2019年8月19日(月)～8月21日(水)※1日又は講座単位の受講も可

対象：大学生、一般県民、県下の公立学校教員、その他自然学校に関心のある者

募集定員：30人

内容：兵庫型「体験教育」とは、自然のお話と自然散策、指導補助員の心得、ロープワークをいかした隠れ家づくり、救急救命法、星空観察、野外炊事指導の基礎基本

参加費：7,000円程度(宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費)

プレ自然学校・アフター自然学校

期日：日帰り又は1泊2日

(1) 自然学校受入期間中 金曜日・土曜日受け入れ可(金曜日から土曜日にかけての1泊2日も可)

(2) 自然学校受入期間以外 全日(日曜日～土曜日)受け入れ可 (日曜日以外の休校日を除く)

対象：県下の公立小・中学校

内容：自然散策、朝来山登山、自然体感ゲーム、自然物クラフト、野外炊事、隠れ家づくり、星空観察、テント泊等

経費：食事代(弁当持参も可)、施設使用料、活動材料費が必要です。

親子で自然学校 ～豊かな自然の中で親子のふれあいを深めましょう～

期日：第1回 2019年4月20日(土)～4月21日(日) 第4回 2020年2月8日(土)～2月9日(日)

第2回 2019年8月24日(土)～8月25日(日) 第5回 2020年3月14日(土)～3月15日(日)

第3回 2019年12月14日(土)～12月15日(日)

参加費：3,000円程度(宿泊料、食事代、リネン料、保険料、活動材料費)

対象：原則として県内の小学生とその保護者

※原則1泊2日ですが、日帰り希望も受け付けます。



募集定員：10組(40人程度)

内容：段ボール釜でピザづくり、香りをきく、野外炊事(夏野菜カレー)、キャンプファイヤー、紙すき体験、草木染め、ダッヂオーブンでつくる丸ごと料理、竹田城跡登山等

申込み：事前に参加申込が必要です。各回とも定員になり次第、募集を締め切ります。

遊友体験活動 ～南但馬自然学校の自然を五感で感じよう～

期日：第1回 2019年4月20日(土)「新緑の里山を楽しもう！～里山の春みつけ～」

第2回 2019年7月6日(土)「初夏の里山を楽しもう！～夏の生き物さがしへ～」

第3回 2019年10月19日(土)「紅葉の里山を楽しもう！～さつまいも掘りと焼きいも、どんぐりみつけ～」

参加費：各回50円(保険料)

対象：一般県民(小学生以下は保護者同伴でご参加ください)

募集定員：第1・2回:30人程度、第3回:60人程度

申込み：事前に参加申込が必要です。各回実施日の5日前までに申し込んでください。

※詳しくは、兵庫県立南但馬自然学校指導課までお問い合わせください。